

小学校5・6年生合同授業

98名 小学校授業 5・6年

- 日時:2014.7.16 2・3校時+15分(90分+15分=105分)、休憩時間10分
- 場所:愛媛県新居浜市立小学校、体育館にて
- 対象:5・6年生98名による合同授業(参観日)
- 講師:みらい育ティーチャー2名
- 絵本「じっとみて。」の制作



目標 (全ワークショップ共通)

- 思考力** 自分の心の中に深くに思いを巡らせ、自分についてじっくり考えることができる。
- 創造力** **表現力** 思考のプロセスや結果を絵と文章で、カタチにすることができる。
- 自己肯定** 自分の個性や魅力を確認したり、発見することで、自己肯定感を感じ、かけがえのない自分の存在意義を見出す。
- 未来力** 体の中から未来に向かう力(目標や夢、希望)がわき出すことを実感する。
- 多様性** 他者の思考のカタチにも触れることで、多様な価値観を共有する。
- 他者肯定** 自分の良い面、他者の良い面を共有し、お互いに認め合う。
- 達成感** 完成した絵本は自分の著書となり、自信の証となる。
- 発表力** 即興で、自分なりに工夫して作成した絵本を発表することができる。

授業風景



誰もがみんな真剣に絵本制作に取り組んでいます。参観日のため、保護者の参加も。



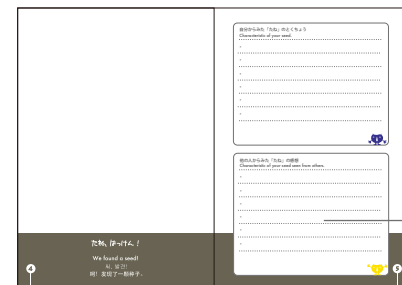
2人1組で発表し合う様子。自分の作品を一生懸命話し、友達作品を一生懸命聞いています。



みんなの前で発表。大きくスクリーンに映し出された絵も見ないで堂々と前を向いて自分の絵本を発表できました。

エピソード

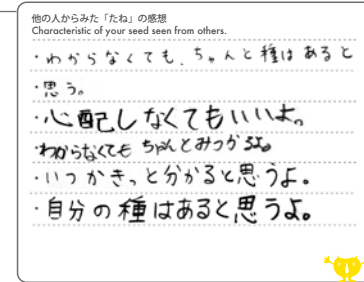
最初のシーン「自分のタネ」をどうしても描けなかった5年生男子児童の場合



① 絵本のはじまりは、「タネ」のシーンです。自分の内面をじっとみて、自分自身を「タネ」にたとえて絵を描きます。しかし、彼はどうしてもタネのイメージが見つかりません。周りの友達はどんどん絵を完成させ、できた人同士が絵本を交換し、感想を書き合いはじめました。でも、絵本は白紙のままです。ついに彼はしくしくと泣き出してしまいました。

② 「タネが描けなくても大丈夫だよ」「文章で書いてもいいんだよ」など、ティーチャーが声がけをしました。すると、やはり涙は止まりませんが、文章の欄に「なし。」と書くことができました。

③ そんな彼の絵のない絵本に対して、グループの仲間は感想を書きました。それはとても思いやりにあふれた言葉になりました。



「ほめてあげましょう。」とか「良いところを書きましょう」など、プラスのストロークは一切しません。しかし、誰もがみんな彼を心から励まし、そこは肯定的な気持ちがあふれる場となりました。

④ 絵本は次の芽のシーンに進みます。涙は止まらず、絵も描けません。そこで、担任の配慮で、彼はいったん席を外し、体育館の外に出て行くことになりました。

⑤ ところが、2つめの「芽」のシーンの途中で、彼は自主的に自分の席に戻ってきました。そして、何事もなかったように芽を描き、さらにはタネに戻って自分を表すタネ(右下の絵)を描きました。外に出ていた時もずっと思考を巡らしていたのでしょうか。自分の力で、自分のタネを見つけ、表現することができました

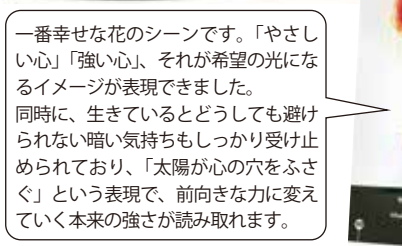
⑥ こうして全5シーン、自分をじっとみつめて、自分の絵本を完成させました。すっかり笑顔になって発表することもできました。



作品紹介



最初のタネのシーンです。自分をじっとみて、しつぽや口のある、とても豊かで興味深い特ちょうを見つけることができました。それに対して、「特技が多いとか?」など、真摯に、しっかりと見つめてくれる他者からの感想が書かれ、個性がさらに輝き始めました。



一番幸せな花のシーンです。「やさしい心」「強い心」、それが希望の光になるイメージが表現できました。同時に、生きていこうとしても避けられない暗い気持ちもしっかり受け止められており、「太陽が心の穴をふさぐ」という表現で、前向きな力に変えていく本来の強さが読み取れます。



最後のシーンです。「ずっとほかのタネを守り続ける」という作者の思いが、黄色から青い鳥になって表現されました。未来への思いが、スケール感のあるやさしい気持ちとして表れているようです。持続発展的な未来を自分の手で作るという確信に満ちた絵本になりました。

アンケート集計

